



平成20年8月13日

各位

会社名	株式会社アパマンショップホールディングス (コード番号8889 大証ヘラクレス)
代表者	代表取締役社長 大村 浩次
本社所在地	東京都中央区京橋一丁目1番5号
問合せ先	管理本部 執行役員 管理本部長 中山 陽一
T E L	03 - 3231 - 8020

当社子会社(株式会社AS - SZKi (JASDAQ:コード1995))の
平成21年3月期(連結・個別)業績予想の修正に関するお知らせ

当社の連結子会社であります株式会社AS - SZKi (JASDAQ:コード1995)が平成20年5月19日付「平成20年3月期 決算短信」で公表しました平成21年3月期の業績予想を別添資料のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

別添資料

株式会社AS - SZKiの開示資料
「業績予想の修正に関するお知らせ」

以上

各 位

上場会社名	株式会社 AS-SZKi
代表者	代表取締役社長 千葉 慎二
(コード番号)	1995)
問合せ先責任者	専務取締役 木下 義治
(TEL)	055-971-3040)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年5月19日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	14,000	900	730	450	8.89
今回発表予想(B)	5,000	△110	△320	△670	△13.24
増減額(B-A)	△9,000	△1,010	△1,050	△1,120	――
増減率(%)	△64.3	――	――	――	――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	8,173	1,595	1,493	1,501	38.09

平成21年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	23,000	2,000	1,750	1,000	19.76
今回発表予想(B)	20,000	1,600	1,270	550	10.87
増減額(B-A)	△3,000	△400	△480	△450	――
増減率(%)	△13.0	△20.0	△27.4	△45.0	――
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	13,977	2,621	2,351	2,091	46.45

平成21年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,000	500	530	300	5.93
今回発表予想(B)	3,600	△390	△360	△460	△9.09
増減額(B-A)	△1,400	△890	△890	△760	――
増減率(%)	△28.0	――	――	――	――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	3,909	1,446	1,452	1,516	38.46

平成21年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	9,000	1,400	1,420	830	16.40
今回発表予想(B)	8,100	950	960	500	9.88
増減額(B-A)	△900	△450	△460	△330	――
増減率(%)	△10.0	△32.1	△32.4	△39.8	――
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	7,992	2,076	2,116	1,906	42.34

修正の理由

平成21年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正

1.売上高につきましては、主としてAM事業領域における連結子会社の不動産ファンド6社が所有する物件(18件)について当第2四半期末までに売却を予定しておりましたが、昨今の不動産市況や金融環境の影響もあり、買い手が決まっている物件であっても買い手側の資

金確保の問題や売買価格の決定等の売買にかかる交渉が長期化し、第2四半期末までの売却見込みが下半期にずれ込む見込みとなり、前回予想を9,000百万円下回る5,000百万円となる見込みであります。

2.営業利益につきましては、上述1.のとおり売上高の減少により売上総利益が減少し前回予想を1,010百万円下回る110百万円の損失となる見込みであります。

3.経常利益につきましては、上述1.及び2.の理由により前回予想を1,050百万円下回る320百万円の損失となる見込みであります。

4.第2四半期純損益は、上述1.から3.の理由に加え、当第1四半期において長期営業債権が回収されたこと等により、貸倒引当金の戻入額50百万円を特別利益に計上したこと、及び当第1四半期より「棚卸資産の評価に関する会計基準」を適用したことにより期末在庫に含まれる変更差額のうち、前期以前に起因する部分をたな卸資産評価損として252百万円計上し、また、固定資産の減損損失108百万円等の特別損失合計379百万円を計上したことにより第2四半期純損益は前回予想を1,120百万円下回る670百万円の損失となる見込みであります。

平成21年3月期通期連結業績予想数値の修正

1.売上高につきましては、AM事業領域における昨今の不動産市況や金融環境は一層厳しくなると想定され、不動産ファンドが所有する物件の売買価格の下落や買い手に対する資金の確保の問題などから物件売却が計画見込みを下回ることなどが想定されることから売上見込み額を見直したことにより、前回予想を3,000百万円下回る20,000百万円に修正するものであります。

2.営業利益につきましては、上述1.の理由により売上総利益が減少し前回予想を400百万円下回る1,600百万円に修正するものであります。

3.経常利益につきましては、上述1.及び2.の理由により前回予想を480百万円下回る1,270百万円に修正するものであります。

4.当期純利益につきましては、上述1.から3.の理由に加え、当第1四半期において特別利益及び特別損失を計上したことにより前回予想を450百万円下回る550百万円に修正するものであります。

平成21年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正

1.売上高につきましては、主として上述「平成21年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正」に記載のとおり、連結子会社の不動産ファンドの所有する物件の売却が下半期にずれ込む見込みとなり、それに伴う当社が受け取るコンサルティング報酬の減少が見込まれること等により、前回予想を1,400百万円下回る3,600百万円となる見込みであります。

2.営業損益につきましては、上述1.のとおり売上高の減少により売上総利益が減少し前回予想を890百万円下回る390百万円の損失となる見込みであります。

3.経常損益につきましては、上述1.及び2.の理由により前回予想を890百万円下回る360百万円の損失となる見込みであります。

4.第2四半期純損益は、上述1.から3.の理由に加え、長期営業債権が回収されたこと等により、貸倒引当金の戻入額60百万円を特別利益に計上したこと、及び当第1四半期における「棚卸資産の評価に関する会計基準」を適用したことにより期末在庫に含まれる変更差額のうち、前期以前に起因する部分をたな卸資産評価損として13百万円計上し、また、固定資産の減損損失108百万円等の特別損失合計140百万円を計上したことにより第2四半期純損益は前回予想を760百万円下回る460百万円の損失となる見込みであります。

平成21年3月期通期個別業績予想数値の修正

1.売上高につきましては、上述「平成21年3月期通期連結業績予想数値の修正」に記載のとおり、主としてAM事業領域において連結子会社の不動産ファンドの所有する物件の売上見込額について見直したことにより、それに伴う当社が受け取るコンサルティング報酬の減少等が見込まれることから前回予想を900百万円下回る8,100百万円に修正するものであります。

2.営業利益につきましては、上述1.のコンサルティング報酬の減少により売上総利益が減少し前回予想を450百万円下回る950百万円に修正するものであります。

3.経常利益は、上述1.及び2.の理由により前回予想を460百万円下回る960百万円に修正するものであります。

4.当期純利益につきましては、上述1.から3.の理由に加え、当第1四半期において特別利益及び特別損失を計上したことにより前回予想を330百万円下回る500百万円に修正するものであります。

(注)上記の予想は、本資料の発表時現在において入手可能な情報をもとにした仮定を前提としており、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。